

未来の教育環境のあるべき姿へと導く SCSK による ICT 環境改善

ランサムウェア対策も万全

クラウドファイルサーバ **NetApp CVO** **NetApp®**
(ネットアップシーブイオー)

- ・国内多数の導入実績。弊社 SCSK 自身が国内最大の NetApp CVO ユーザー
- ・データ自動階層化により、コストパフォーマンスが高いデータ管理を実現

重複データや未活用データの整理、アクセス権管理
サーバ統合管理ソフトウェア **NIAS**
(ニアス)

最新 Ver 5.1 リリース
ログ監視：不正プログラム対策サポート

- ・データを全て可視化して、整理することで大きくコスト削減
- ・国内シェア No.1 を 7 年間獲得※ 国内外で 700 組織で導入

※出典：ITR [ITR Market View：コラボレーション市場 2022]
ファイルサーバ可視化市場：ベンダー別売上金額シェア（2014～2018 年度、2020～2021 年度）



認証による自動ファイル暗号化、自動ファイル復号化
機密情報保護 **InfoCage FileShell** **InfoCage**
(インフォケージファイルシェル)

- ・認証による暗号制御で、ファイルが外部に漏洩しても復号化できず安心
- ・財務省管轄独立行政法人を筆頭に、既に数百組織の導入実績

EDR 次世代型エンドポイントセキュリティ
サイバー攻撃対策 **Cybereason** **cybereason**
(サイバーリーズン)

- ・学校・教育機関内の端末の悪意ある活動、不正プログラムの動作を検知して素早い対処
- ・アンチウイルスやファイアウォールなどでも対策できないサイバー攻撃から守る

効率的な運用とセキュリティ強化を実現
統合エンドポイント管理ソフトウェア **Ivanti** **ivanti®**
(イヴァンティ)

- ・運用自動化を支援する豊富な機能
- ・サードベンダーも含めたパッチ管理で脆弱性リスクを低減



SCSK と INTEL による教育 IT システムのセキュリティ

NEW EDUCATION EXPO 2023 の SCSK ブースでは、Intel® Core™ vPro® プロセッサと展示製品で実現するランサムウェア攻撃からの強力なエンドポイント保護と、さまざまなトラブルの自己修復ソリューションをご紹介します。

※SCSK は総合 IT 企業として、ほぼあらゆる INTEL プロセッサ搭載機器を取り扱っております。そのノウハウとサポート実績、ソリューション力で、多くの学校、教育機関、教育行政に携われるお客様に高いご評価をいただいております。

ICT環境改善、重要データの適切な管理、情報セキュリティはSCSKにお任せください。

これまで数多くのお客様にさまざまな情報セキュリティを強化する IT システムの導入構築を担ってきた SCSK では、豊富な知識と経験があります。技術支援として、国家資格「情報処理安全確保支援士」を筆頭に高度情報処理資格を持った技術者による総合的なアドバイスや 製品、ソリューションを熟知したエンジニアによるきめ細かなサポートを提供しています。SCSK の知見はあらゆる教育現場でお役に立ち、課題解決を実現します。ぜひ安心してご相談ください。



製品および記載内容に関するお問い合わせ

SCSK SCSK株式会社
<https://www.scsk.jp/>

IT インフラ・ソフトウェア事業本部
サーバ・ストレージ部 / セキュリティソフトウェア部
NetApp CVO お問い合わせ: q-mail@scsk.jp
NIAS、FileShell お問い合わせ: nec-sales@scsk.jp
Cybereason のお問い合わせ: cybereason-sales@scsk.jp
Ivanti のお問い合わせ: scsk-ivanti-sales@scsk.jp



NetApp CVO
詳細はこちら



NIAS
詳細はこちら



FileShell
詳細はこちら



Cybereason
詳細はこちら



Ivanti
詳細はこちら

●記載の社名、製品名は各社の商標または登録商標です。●記載製品の輸出(非居住者への役務提供等を含む)に際しては、外国為替及び外国貿易法等、関連する輸出管理法等をご確認の上、必要な手続きをお取りください。ご不明な場合、または輸出許可等申請手続きに当たり資料が必要な場合には、お買い上げの販売店またはお近くの弊社営業拠点にご相談ください。●改良のため予告なく製品仕様を変更することがあります。●記載内容は2023年6月1日現在のものです。

CUSTOMER SUCCESS STORY

SCSKの従業員1万ユーザーが使う
統合ファイルサーバーをAWSへ移行、
NetApp Cloud Volumes ONTAPを採用し
性能と運用管理性を大幅に向上



**ファイル数2億/総容量160TBのクラウドストレージを構築、
Amazon EBSとS3で階層化し大規模環境のコストを最適化。**

SCSKが、自らの変革を軸にした成長戦略を加速させています。SCSKグループは2030年に目指す姿として「グランドデザイン2030」を策定しました。ここで掲げた「2030年 共創ITカンパニー」の実現というメッセージは、SCSKが主体的に社会への価値創出に取り組みながら、顧客や社会と共に成長していく決意を示したものです。新たな経営体制のもと、2030年売上高1兆円達成に向けたチャレンジは着実に前進しています。

2021年2月、SCSKは従業員1万ユーザーが利用する「統合ファイルサーバー」のAWS上への移行を完了させました。オンプレミスで運用されてきた本システムは、ファイル数2億/総容量160TBという大規模な環境です。ユーザー数/データ量の増大とともに、慢性的な性能不足、運用負荷の高まりに悩まされてきましたが、「NetApp Cloud Volumes ONTAP (CVO) for AWS」の採用により、これらの課題を一掃しました。SCSKは、いかに大規模ファイルサーバー

90%
EBSからS3へ
ティアリング

“CVOによる統合ファイルサーバーは、SCSKが持つ情報資産を集約し共有する場であり、データ管理・保護の基盤システムです”

SCSK株式会社
ITインフラ・ソフトウェア事業本部 サーバ・ストレージ部 技術第一課
岩崎 浩久 氏

のパブリッククラウドへの移行を成功させ、従業員の生産性向上に寄与する快適なデータ共有を実現したのか。クラウドストレージの先進事例を紹介します。

1万ユーザーが利用する統合ファイルサーバー

SCSKはクラウドビジネスを急成長させています。高い可用性と機密性を備えた「USiZE」ブランドのマネージドクラウドを中心に、AWS、Azure、GCPなどのパブリッククラウドサービスを活用する事案も急増しています。SCSKならではの付加価値とともに提供されるクラウドソリューションは、レガシーシステムの移行先として選択され、顧客企業のDX推進やビジネス目標の達成に寄与しています。同社 ITインフラ・ソフトウェア事業本部サーバ・ストレージ部技術第三課の大野敏享氏は次のように話します

「SCSK社内では、業務系システムを中心にAWSなどのクラウドを積極的に活用しています。私たち自身がクラウド導入を通じて技術とノウハウを蓄積することで、お客様価値の高いソリューションを提供することが可能です」

SCSKでは、クラウド活用の一環として1万ユーザーが利用する「統合ファイルサーバー」をAWS上へ移行し、2021年2月より運用を開始しました。同事業グループで従来よりファイルサーバーの運用に携わる岩崎浩久氏は次のように振り返ります。

「オンプレミスの統合ファイルサーバーを、2016年より自社データセンター（SCSK netXDC）で運用してきました。本環境では、ユーザー数/データ量の増大とともに、慢性的な性能不足や運用の煩わしさに悩まされており、アクティビティもかなり高まっていたことも課題でした」

統合ファイルサーバーは、ファイル数2億/総容量160TBという大規模システムです。旧環境では、ハイエンドストレージをHA構成としてデータを二重化し、スナップショット取得、ユーザーによるファイルリストア、ファイル監査ログ保管などが可能な環境が整備されていました。

「次世代の統合ファイルサーバーの検討に着手したのは2019年



SCSK株式会社
ITインフラ・ソフトウェア事業本部サーバ・ストレージ部 技術第三課
大野 敏享 氏

です。私たちは、現状分析を起点に課題を徹底的に洗い出し、それを一掃するための最適な方法を検討していきました。オンプレミス、オンラインストレージサービス、クラウド型ストレージサービス、それぞれのメリット/デメリットを評価した結果、私たちが選定したのは、『NetApp Cloud Volumes ONTAP for AWS』でした」(岩崎氏)

NetApp Cloud Volumes ONTAP for AWSを採用

NetApp Cloud Volumes ONTAP (CVO) は、パブリッククラウドで利用できる高品質なストレージサービスです。オンプレミスのONTAPストレージと同等レベルのデータ管理とデータアクセスを実現し、Snapshot、SnapMirror、重複排除・圧縮、FabricPoolなどの優れたONTAP機能を利用できます。

「クラウド型ストレージでは、容量と性能をオンデマンドで拡張でき、ハードウェアの管理が不要で、オブジェクトストレージを利用してコールドデータの保管コストを低減できます。CVOを選択する決め手となったのは、こうした拡張性・運用負荷・コスト面での優位性に加え、『ストレージ機能で妥協しなくていい』という点が大きかったと思います」(岩崎氏)

クラウド型ストレージで、旧環境のハイエンドストレージと同等以上の機能を利用できること——エンタープライズNASとして実績豊富なONTAPの機能を備えたCVOの優位性は明らかでした。

CVOは、SCSKが掲げた下記の機能要件にすべて応えました。

- Active Directory連携
- バックアップおよびユーザー自身でのファイルリストア
- ABE(アクセス権を持つファイルとフォルダだけをユーザー表示)
- クォータ管理(容量利用上限の設定)
- 監査ログの取得
- スクリーニング(ランサムウェア対策)
- 高可用性(異なるデータセンター間でのデータ冗長化)
- ストレージコスト抑制(データ階層化)

「監査ログの取得、スクリーニングは、セキュリティ面で非常に重視すべきポイントです。CVOは、私たちが使い慣れたAlogによるログ分析が可能で、ユーザーの操作をトレースすることもできます。また、FPolicy機能を利用することで特定の拡張子以外の書き込みを制限でき、これをランサムウェア対策に応用しています」(岩崎氏)

90%以上のデータを低コストのS3へティアリング

クラウド型ストレージの利用において、必ず留意しなければならないのは「コストの抑制」です。CVOでは、ホットデータをブロックストレージ(Amazon EBS)で運用し、コールドデータをオブジェクトストレージ(Amazon S3)に自動的に移動させることで効果的にストレージコストを抑制できます。

「CVOが備えるFabricPoolのティアリング(データ階層化)機能で、EBSからS3に移動したデータは90%を超えており、コスト抑制効果はかなり大きいと言えるでしょう。また、CVOはブロックレベルでティアリングしているため、ユーザーはEBS領域かS3領域かを意識することなくファイルを操作することができます」(ITインフラ・ソフトウェア事業本部サーバ・ストレージ部 営業第一課 対崎宏也 氏)



SCSK株式会社
ITインフラ・ソフトウェア事業本部サーバ・ストレージ部 技術第一課
岩崎 浩久 氏

さらに、CVOでは重複排除・データ圧縮機能も利用できます。本環境では20%程度のデータ量削減効果が得られており、160TBという大規模ファイルサーバー環境において大きなコスト抑制効果をもたらしています。



SCSK株式会社
ITインフラ・ソフトウェア事業本部サーバ・ストレージ部 営業第一課
対崎 宏也 氏

ファイル数2億/総容量160TBの環境をいかに移行するか

AWS上に構築されたCVOによる統合ファイルサーバーは、拡張性・運用負荷・コスト・機能面のすべてで大きな成果をもたらしました。リクエスト数やファイルサーバー上でファイル操作の増大傾向が続く中、ユーザーの体感スピードも大幅に改善しました。岩崎氏は次のように振り返ります。

「私たちは、ファイル数2億/総容量160TBという大規模ファイルサーバーを安全にAWSへ移行するために、AWSに精通したSCSKのエキスパートチームおよびIT部門と協力し、およそ半年をかけてCVO実行環境の設計・構築、移行設計、移行支援ツールの選定と検証を慎重に進めました。異機種間でのデータ移行のため、ストレージ機能によるレプリケーションは使えないことが前提です」

慎重な検討を経て、移行ツールには高速スキャン・高速転送が可能なPeerSyncが採用されました。

「緻密に練り上げた移行手順に沿って、入念にリハーサルを行い、本番移行に臨みました。大きな流れとしては、初期コピー、差分コピーと整合性検証、最終コピーと整合性検証という手順を、6つに区分された領域に対して繰り返していきました。PeerSyncにより閉域網を使った高速データ転送を行うことで、オンプレミスからクラウドへの大規模なデータ移行をスケジュール通りに完了させることができました」(対崎氏)

移行作業はユーザー影響を回避して夜間と土・日曜日に行われました。移行作業への着手から、全ユーザーがCVOによる統合ファイルストレージで業務を開始するまでに半年、トータルで1年2か月を要したプロジェクトは2021年2月に無事完了しています。

CVOのベストプラクティスを顧客への提案に活かす

大野氏は、CVOによる統合ファイルストレージ環境をベストプラクティスとして、顧客企業のクラウド型ストレージ構築・移行サービスに活かしていく考えを次のように示します。

「AWS、Azure、GCPそれぞれに精通したエンジニアを多数擁していることが、SCSKの大きな強みです。CVOの自社導入を通じて得られた技術とノウハウをフルに活用し、お客様のビジネス目標に合致した最適なCVO環境を具現化するとともに、オンプレミスからの安全なデータ移行も万全にサポートします」

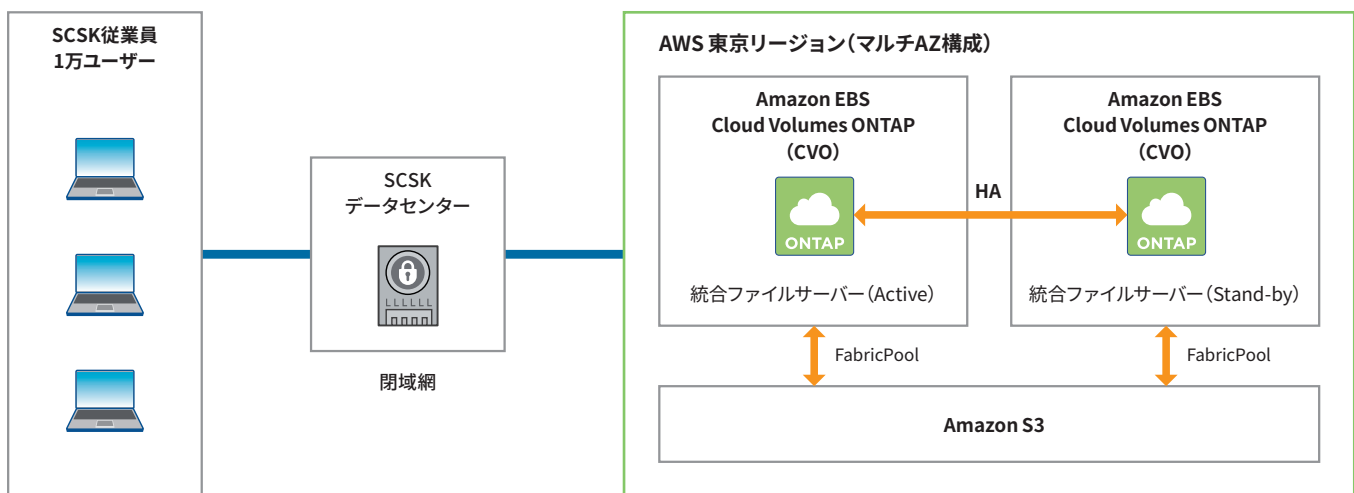
CVOが採用されたSCSKの統合ファイルサーバーの役割は、今後ますます重要度を高めていくでしょう。ネットアップでは、オンプレミスとクラウド、複数のクラウド間をデータが自由に行き来できる「データファブリック」の実現を通じて、より価値の

高いデータ保護・データ活用を提案しています。岩崎氏は次のように結びました。

「CVOによる統合ファイルサーバーは、SCSKが持つ情報資産を集約し共有する場であり、データ管理・保護の基盤システムです。SCSK従業員1万人が安全にデータを扱える環境があつてこそ、SCSKは安心して変革に挑むことができます。ネットアップには、より安全にデータを扱える環境の実現に向けてさらなる支援を期待しています」



Netapp products	Protocols
Cloud Volumes ONTAP	CIFS



本書記載内容およびNetApp製品、NetApp CVOに関するお問い合わせ

SCSK SCSK株式会社
<https://www.scsk.jp/>

IT インフラ・ソフトウェア事業本部 サーバ・ストレージ部

〒135-8110 東京都江東区豊洲3-2-20 豊洲フロント
 E-mail: q-mail@scsk.jp
 製品情報 <https://www.scsk.jp/sp/netapp/>



SCSK NetApp 情報はこちら



ネットアップ合同会社

TEL: 03-6870-7600

Email: ng-sales-inquiry@netapp.com

ネットアップは、ハイブリッド クラウドのデータに関するオーソリティです。クラウド環境からオンプレミス環境にわたるアプリケーションとデータの管理を簡易化し、デジタル変革を加速する包括的なハイブリッド クラウド データサービスを提供しています。グローバル企業がデータのポテンシャルを最大限に引き出し、お客様とのコンタクトの強化、イノベーションの促進、業務の最適化を図れるよう、パートナー様とともに取り組んでいます。

詳細については、www.netapp.com/jpをご覧ください。



Google Cloud、Google Compute Engine および Google Cloud Storage は Google LLC の商標です。
 © 2022 NetApp, Inc. All rights reserved. 記載事項は、予告なく変更される場合があります。内容の一部または全部を NetApp, Inc. の許可なく使用・複製することはできません。NetApp、NetApp ロゴ、SolidFire は、米国およびその他の国における NetApp, Inc. の登録商標です。その他記載のブランド・製品名は、それぞれの会社の商標または登録商標です。CSS-7255-0822-JP

SCSK

ファイルサーバの安全で効率的な運用管理

NIAS

NEC Information Assessment System



ファイルサーバの肥大化やセキュリティに対する
問題点を総合的に改善し
トータルコスト削減・情報漏えいリスク低減を実現します



ファイルサーバ統合管理ソフトウェア NIAS NEC Information Assessment System



このような課題はありませんか？

- 容量の急増で、ファイルサーバが逼迫している
- 効果的に不要ファイルを整理したい
- バックアップが長時間かかっている
- アクセス権管理が煩雑で情報漏えいが心配



NIASの3つの機能で課題を解決します!!

function 1 見える化 利用状況を可視化し、運用状態を検証

- ストレージの増加予測が確認でき、ファイルサーバの増設計画を策定可能
- メモリデータベースを活用し、リアルタイムに条件を変えて高速分析 (NEC独自技術)



＜分析項目と整理対象ファイルの例＞

分析項目	整理対象ファイル
増加傾向	サーバ容量推移・シミュレーション
更新傾向	長期間更新されていないファイル
参照傾向	未参照ファイル
サイズ傾向	10MB以上の大容量ファイル
重複傾向	重複しているファイル
所有者傾向	大容量占有ユーザの特定
種別傾向	ファイル種別の特定

function 2 スリム化 不要ファイルを簡単に整理整頓

- 利用者に確認後、必要のないファイルは未公開エリアへ移動
- 長時間未参照ファイルは、ショートカットとアーカイブストレージを活用し、整理可能



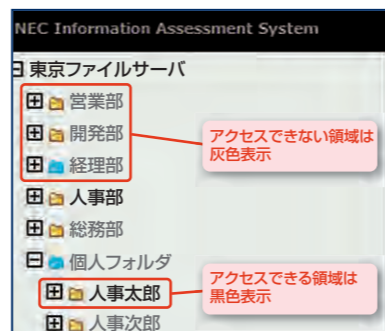
function 3 健全化 アクセス権限の適正管理

- 人事異動や退職などに伴い発生するアクセス権の棚卸に対応
- 不適切なアクセス権の検出・修正可能

権限確認
指定オブジェクトのアクセス権限を確認する: DEMO\人事太郎 名前の確認 反映
上位フォルダにないアクセス権限が付与されているファイル・フォルダを確認する

グループユーザがアクセス可能なフォルダをツリービュー上で色分け表示
「誰が、どこのフォルダにアクセスできるか」を可視化して把握

アクセス可能な範囲が視覚的に確認できるので、管理しやすい!!



オプション利用により、さらに業務効率化/セキュリティ強化が図れます

リソース管理 フォルダ割り当て業務などが一元管理できるため、業務効率アップ

- 人事異動や組織改編時に発生する煩雑な設定作業を大幅に改善
- クォータ設定やアクセス権、ActiveDirectoryのセキュリティグループを一元管理
- 設定作業を現場部門に権限移譲する事ができ、申請承認を行うためのワークフロー機能を搭載

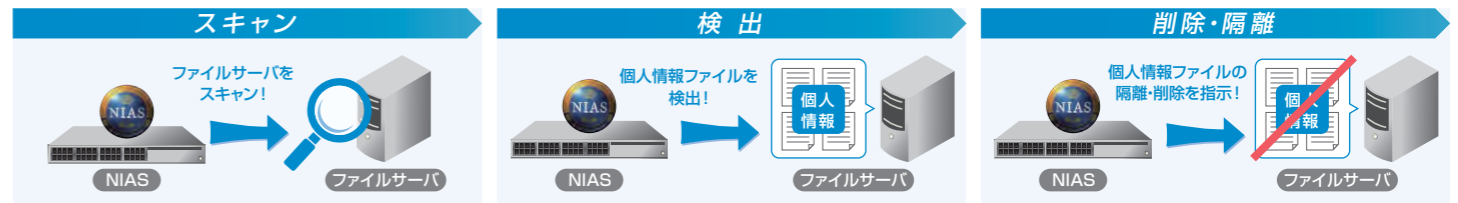
フォルダ運用から申請承認フローまで業務効率改善機能が充実!!



個人情報検出 個人情報を含んだファイルを「検出」「隔離」「削除」し、漏洩リスクを削減

- 検出できる個人情報は、氏名・メールアドレス・住所・電話番号・マイナンバー・クレジット番号など
- 個人情報を含むファイル件数が画面上で確認でき、利用部門へ確認を行いながら削除や隔離ができる
- 個人情報を含むファイルへのアクセス可能者数やファイル内の個人情報数を総合的に分析し、危険度が判断できる

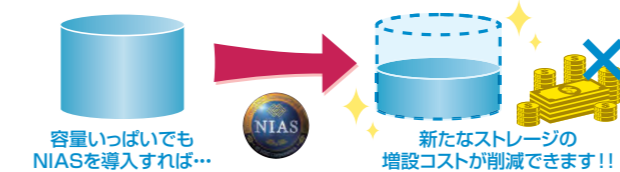
個人情報が含まれるファイルを検出できる!!



お客様の環境に合った最適な組み合わせをご提案いたします

コスト削減プラン NIAS+メインストレージ

NIASで容量削減し、ストレージ全体費用の大幅削減に!!

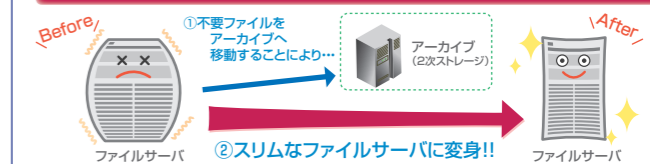


- こんなお客様におすすめ▶▶▶
- 新たにファイルサーバの導入を検討している
 - ファイルサーバの更改時にかかる費用を削減したい

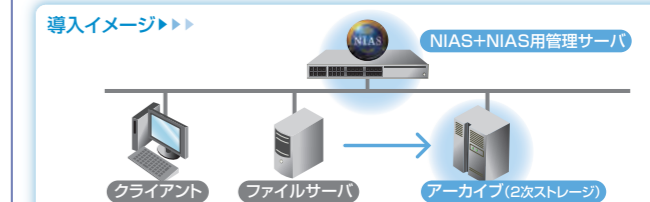


肥大化対策プラン NIAS+アーカイブ(2次ストレージ)

不要データの整理でファイルサーバの肥大化対策に!!

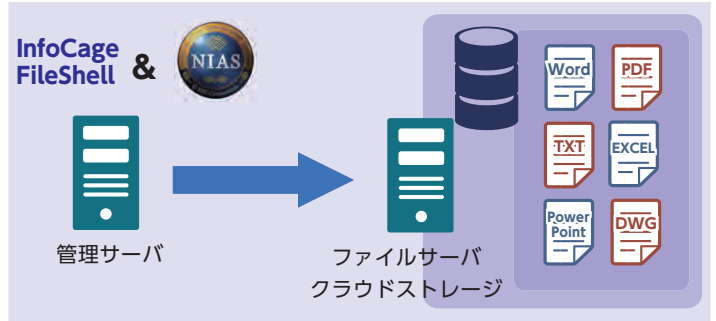


- こんなお客様におすすめ▶▶▶
- 捨てたいファイルがあるが、なかなか捨てられない
 - 使用頻度が少ないファイルを別に管理したい
 - ポリシーを決め、定期的に自動で整理したい



機密情報保護ソフトウェア連携 InfoCage FileShell連携機能

- ファイルサーバ統合管理「NIAS(ニアス)」は、機密情報保護ソフトウェア「InfoCage FileShell」と連携可能
- 「NIAS」と「InfoCage FileShell」を連携することで、ユーザの利便性を下げることなく、「NIAS」の管理画面から条件にマッチするファイルをピンポイントに指定して保護化可能
- 「NIAS」と「InfoCage FileShell」の連携には、「NIAS」上に「InfoCage FileShell プロテクタ for NIAS」をインストールして実現。同ソフトウェアは「NIAS」と「InfoCage FileShell」両方を導入済の正規ユーザー様へ無償提供



NIAS 技術支援 NIASの導入構築、コンサルティング、教育、運用支援からサポートまでSCSKへお任せ

- これまで数多くのお客様にさまざまな情報セキュリティを強化するITシステムの導入構築を担ってきたSCSKでは、豊富な知識と経験を有しております。技術支援として、国家資格「情報処理安全確保支援士」を筆頭に高度情報処理資格を持った技術者による総合的なアドバイスや「NIAS」を熟知したエンジニアによるきめ細かなサポートを提供しています。重要データを保存しているサーバ、ストレージの管理において「NIAS」の導入は大きくお役に立ち、あらゆる面でお客様の課題解決を自信をもってご提供いたします。



NIASライセンス 詳細はお気軽にお見積もりをご要望ください。

- 管理対象となるファイルの総使用容量に応じた基本ライセンス（管理対象1TB）と追加ライセンスを用意しています。「NIAS」をインストールするサーバ1台に基本ライセンスが1本必要です。「NIAS」による管理対象のファイルサーバへのインストールは不要です。利用する一般ユーザ数の制限はありません。

製品名	内容
NIAS 基本ライセンス 1TB	見える化、容量削減・整理、アクセス権機能がお使いになります。NIAS管理サーバ1台毎に1つの基本ライセンスが必要です。
NIAS 追加ライセンス 1TB ~	管理対象のファイルの総使用容量に応じた追加ライセンスです。
リソース管理オプション	ファイルサーバの運用業務をNIAS画面から一元管理するためのオプション機能です。フォルダの割り当て、アクセス権の付与など、承認申請のワークフローを使って、効率よく正確に設定作業を行うことができます。
個人情報検出オプション	ファイルサーバ内の個人情報が含まれるファイルをNECの独自フィルタリング技術で検出できるオプション機能です。管理者がどこに機密情報があるのかを把握し、対象ファイルを隔離したり、廃棄することが可能となり、情報漏えいのリスクを低減します。
データ移行オプション	オンプレミスのファイルサーバから、CIFS共有できる別のファイルサーバへデータ移行を行います。別機種のストレージ、AWSやAzureのようなIaaS環境上のファイルサーバへデータ移行も可能です。また、クラウドストレージのBoxへデータ移行することもできます。
ファイル暗号オプション powered by NonCopy2	個人情報検出オプションで個人情報が含まれるファイルを隔離する際に暗号化が可能なオプション機能です。暗号化されたファイルは印刷やメール添付、Webサイトへのアップロード・ファイル転送、保護フォルダ外へのファイルのコピー&ペースト、画面キャプチャなどを禁止し、情報漏えいのリスクを低減します。



NIAS動作環境 NIASはオンプレミスはもちろんクラウド環境も対応可能

OS	Windows Server 2022 Windows Server 2019 Windows Server 2016 Windows Server 2012 R2 Windows Server IoT 2019 for Storage Windows Storage Server 2016 Windows Storage Server 2012 R2 ※ Windows Storage Server、Windows Server IoTにインストールする場合、管理対象はそのサーバ自身の共有フォルダのみになります。
CPU	Dual Core以上(Quad Core以上推奨)
メモリ	4GB以上 (必要メモリ量は検査パスのファイル数に依存します。)
ディスク空き容量	以下の合計分の容量が必要です。 ・システムドライブに約500MB ・インストール先フォルダに設定したドライブに約500MB (検査対象グループを増やす毎に200MB 追加) ・データ格納先フォルダに設定したドライブに対象容量1TB当たり約15GB
対応仮想化ソフト	VMware, Hyper-V

Web管理画面表示	Chromium 版 Edge Chromium 版 Edge (IEモード) Chrome
検証済クラウド環境	AWS、Microsoft Azure ※NIAS管理サーバとして動作検証済み
対応ファイルサーバ	NTFS、CIFS共有
リソース管理オプション フォータ機能対応 ストレージOS	Windows Server 2012 R2以降 Windows Storage Server 2012 R2以降 NetApp 7-Mode Data ONTAP 8.1~8.2 NetApp Cluster-Mode Clustered Data ONTAP 8.2~8.3, 9.0~9.7 EMC VNX VNX OE for FILE 8.1 EMC Isilon OneFS 7.0 ~7.2, 8.2 EMC Unity UnityOE 4.0 ~ 4.5, 5.0 iStorage M NAS オプション Virtual File Platform 4.2.2 ~ 5.1.1

製品開発元 日本電気株式会社 〒108-8001 東京都港区芝五丁目7-1 (NEC本社ビル)

製品およびご購入に関するお問い合わせ

SCSK SCSK株式会社
https://www.scsk.jp/

ITインフラ・ソフトウェア事業本部 サーバ・ストレージ部
〒135-8110 東京都江東区豊洲3-2-20 豊洲フロント
E-mail: nec-sales@scsk.jp
製品情報 https://www.scsk.jp/sp/nec_nias/



NIAS 製品サイトはこちら

●本カタログ中の社名、製品名は各社の商標または登録商標です。●本製品の輸出(非居住者への役務提供等を含む)に際しては、外国為替及び外国貿易法等、関連する輸出管理法令等をご確認の上、必要な手続きをお取りください。ご不明な場合、または輸出許可等申請手続きにあたり資料等が必要な場合には、お買い上げの販売店またはお近くの弊社営業拠点にご相談ください。●本カタログに掲載された製品の色は、印刷の都合上、実際のものとは多少異なることがあります。また、改良のため予告なく形状、仕様を変更することがあります。●記載内容は2023年4月1日現在のものです。

機密情報保護ソフトウェア

InfoCage FileShell

インフォケージ ファイルシェル

最新バージョンV6.2リリース

最新バージョン V6.2 機能アップ内容

- Microsoft 365 (Word、EXCEL、PowerPoint) にフル対応
- Windows Server 2022 対応 ●Windows 11 Enterprise / Professional対応
- Microsoft Purview Information Protection (MIP) への機能強化
(Azure ADでの配布先管理 / 秘密度レベルの分類管理 (Microsoft 365連携可能))
- ラベル保護PDF対応 ●InfoCage FileShellポリシーのフルエクスポート/インポート
- ファイルサーバ統合管理「NIAS」連携強化で機密データのピンポイント保護を実現

Microsoft社のIRM*1を用い さまざまな場所およびファイルを自動保護 (認証+暗号化) ファイルが流出しても読まれない安心な経営基盤を実現

機密情報保護における問題と対策事例

経営リスクにつながる機密情報の漏洩を防止!

問題

- 標的型攻撃の高度化、改正個人情報保護法により、機密情報(技術情報、個人情報)の漏洩リスクはますます高まり、経営リスクに
- 機密情報を利用者に区別させるような利用者のモラルに依存した対策の限界
- セキュリティ強化による、業務効率低下の懸念

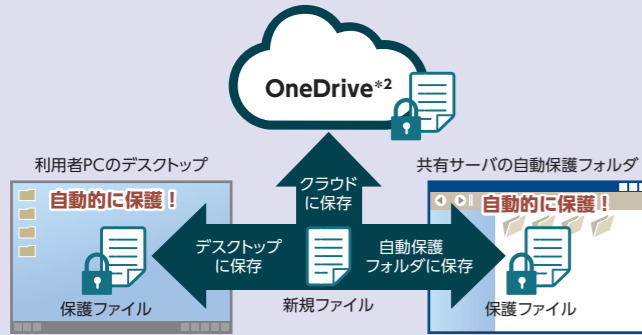
対策

- 『ファイルが流出しても読まれない安心感』で『安全・安心な経営基盤』を確立する
- 機密情報の判断を利用者任せにしない『自動的なファイル保護』
- 『利用者の操作性は変わらず』セキュリティと利便性を両立

InfoCage FileShellの特長

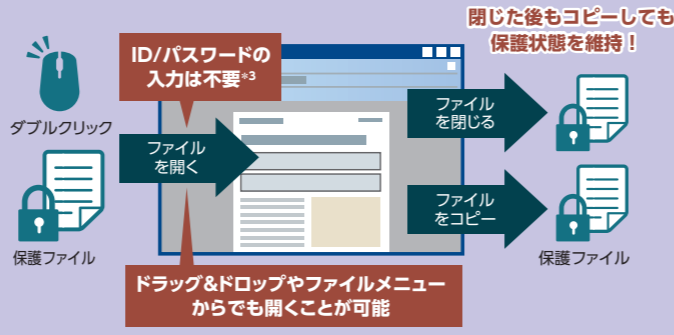
1 自動でモレなくファイルを保護

手作業で保護する必要はありません



2 導入後も利用者の操作は従来通り

保護されたまま編集・閲覧可能



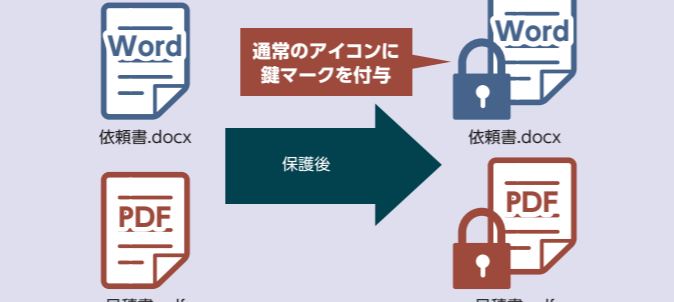
3 多種多様なファイルを保護

利用するアプリケーションも自由



4 保護済みファイルも簡単に視認

拡張子も変わらないため見失いません

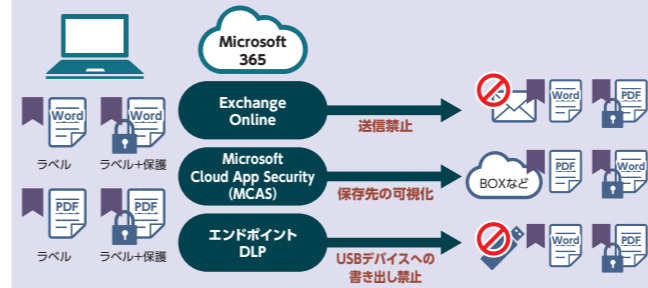


*1: Information Rights Management *2: Microsoft OneDrive または Microsoft OneDrive for Business *3: 本システムが参加しているActive Directoryにログイン時。もしくは簡易認証連携オプション利用時。

機密情報保護ソフトウェア

クラウドサービスとの連携を強化

- Azure Information Protectionのラベル機能に準拠してOfficeファイル、PDFファイルを分類可能で、Microsoft365の各種サービスとも連携可能。Officeファイル、PDFファイル以外のファイルも拡張子を変えずに保護可能



豊富な標準対応アプリケーション、対応ファイル

- InfoCage FileShellは、標準で豊富なアプリケーション、ファイルに対応。さらに標準以外でもユーザ定義で対応アプリケーション、対応ファイル追加も可能

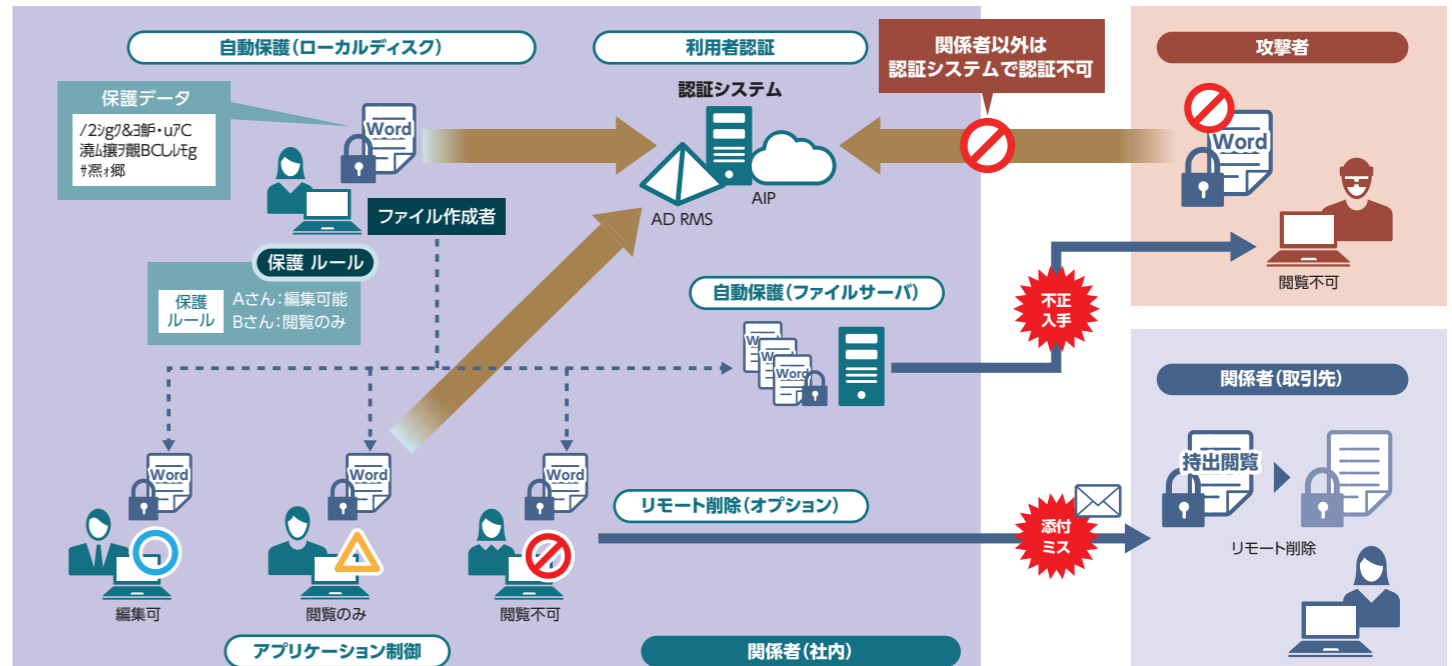
アプリケーション名	バージョン	文書形式
Microsoft365 (Word,Excel,PowerPoint)	-	docx / docm / doc xlsx / xslm / xls pptx / pptm / ppt
MicrosoftOfficeProfessionalPlus (Word,Excel,PowerPoint)	2013*/2016/2019/2021	docx / docm / doc xlsx / xslm / xls pptx / pptm / ppt
MicrosoftVisioProfessional	2016/2019/2021	vsdw / vsdx / vstx / vsdm / vstm
Windows標準メモ帳	10.0(Windows10) 11.0(Windows11)	txt / csv / htm / html
Windows標準ペイント		jpg / jpeg / jpe / jif / tif / tiff / png / bmp / dib / gif
AdobeReader	DCContinuous/Classic2020/ Classic2017/Classic2015	pdf / ttf / xtdf
AutoCAD	2011.2012(SPなし)	dwg / dws / dwt / dxf
SolidWorksPremium	2010SP4.0	SLDASM / SLDPRT / SLDDRW
Pro/ENGINEERWILDFIRE	5.0	prt / asm / drw / frm / sec / rep / mrk (prt/*asm/*drw/*frm/*sec/* rep.* / mrk.*)
CreoParametric	1.00	prt / asm / drw / frm / sec / rep / mrk (prt/*asm/*drw/*frm/*sec/* rep.* / mrk.*)
DocuWorksViewerLight	7.2/8.0/9.0	xdw / xbd / xct
InfoCageFileShell画像ビューアー	4.0/5.0/6.2	jpg / jpeg / jpe / jif / tif / tiff / png / bmp / dib / gif

*1 SP1以上が対象となります。

- InfoCage FileShell V6.2より、ラベル保護されたPDFファイルをAcrobatReaderのプラグインなしで解除/閲覧可能

導入イメージ、活用イメージ

- ファイル自身にセキュリティ情報を持たせ、ファイルがどこに存在しても、常にアクセスとアプリケーションの操作を制限。万が一、ファイルが漏洩しても、中身は漏洩しない安心できる環境を実現
- 大切な情報を安心して任せられる基盤として、AD*1と連動して保護できるAD RMS*2およびAIP*3を採用。利用者の管理も変更不要。また、ADが無い場合もFileShell認証専用ADを構築することにより導入可能

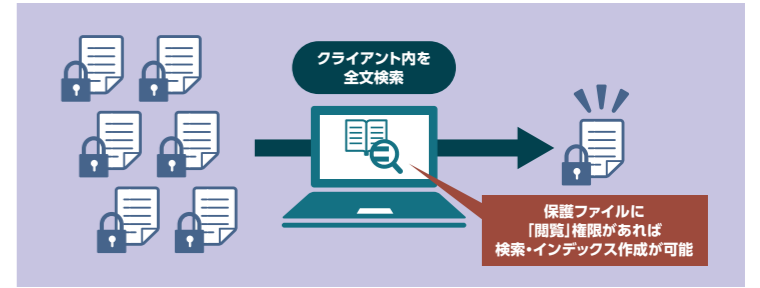


*1: Active Directory *2: Active Directory Rights Management Services *3: Azure Information Protection

InfoCage FileShell

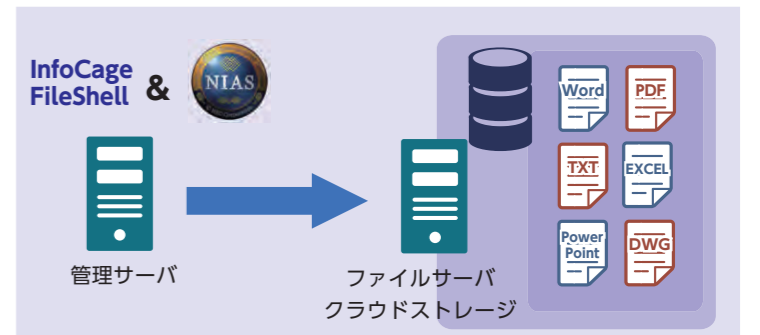
セキュリティと利便性の両立

- 保護したファイルの全文検索を実現(保護していないファイルも含む)
- 検索対象は、Windows Searchと同じ拡張子が設定可能



ファイルサーバ統合管理「NIAS」連携

- ファイルサーバ統合管理「NIAS(ニアス)」と連携し、情報漏えい対策したいファイルをユーザの利便性を下げることなく、NIASの管理画面から条件にマッチするファイルをピンポイントに保護可能

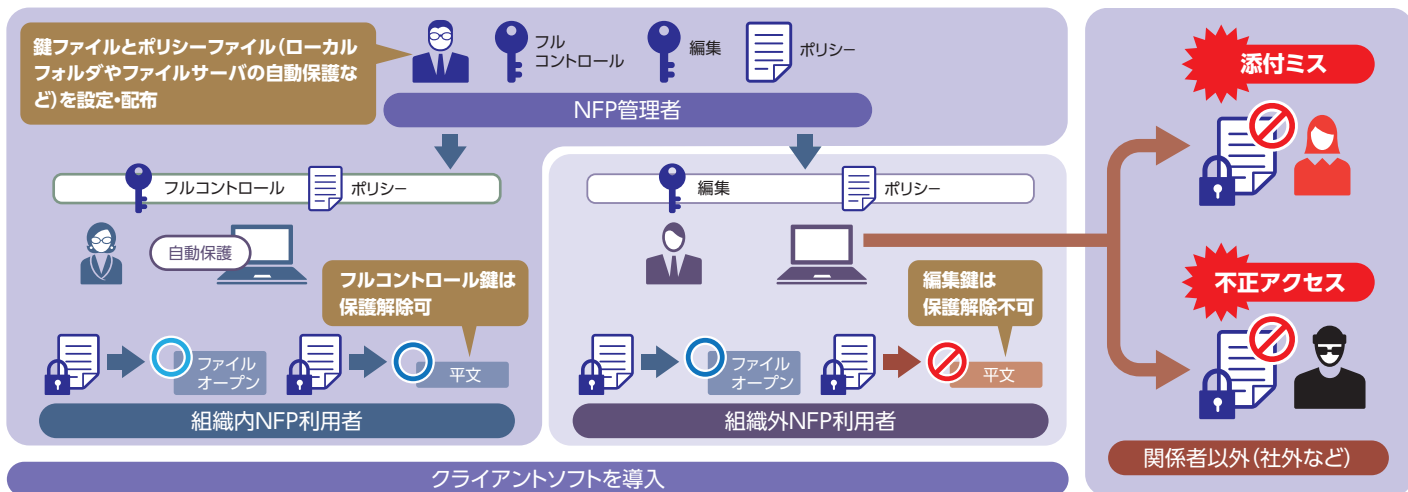


- NIASとの連携には、NIASサーバにInfoCage FileShellプロテクタ for NIASのインストールが必要
- InfoCage FileShellプロテクタ for NIASはInfoCage FileShellとNIASの両方を導入済の正規ユーザー様へ無償提供

鍵ファイルを用いた InfoCage FileShell NEC File Protection Edition (NFP)

●AD RMSやAIPを使わずに導入できるエディションもご用意

サーバレス構成が可能	サーバの代わりに管理者が鍵とポリシーを作成しファイルで利用者に展開	変わらない操作性	配られた鍵で自動的に保護 利用者は保護を意識せず利用可能
-------------------	-----------------------------------	-----------------	---------------------------------



InfoCage FileShell 動作環境

AD RMS利用時	AIP利用時	NFP利用時	InfoCage FileShellサーバ 対応プラットフォーム Windows Server 2022 Windows Server 2019 Windows Server 2016 InfoCage FileShell クライアント 対応プラットフォーム Windows Server 2022 Windows Server 2019 Windows Server 2016 Windows 11* Windows 10* <small>*Windows デスクトップアプリケーションのみ対応</small>
------------------	---------------	---------------	--

●本例はおくまで参考情報であり、冗長化等の構成は導入の際、実環境に合わせて構成を考慮する必要があります。●InfoCage FileShell サーバおよびAD RMSサーバの動作要件として、ADおよびSQL Serverが必要になります。

InfoCage FileShell 製品構成

製品名	概要
InfoCage FileShell メディアキット	InfoCage FileShellサーバおよびInfoCage FileShellクライアントのソフトウェア
InfoCage FileShell ベースライセンス	設定されたポリシーに従い、ファイルの保護やアプリケーションの制御を行うためのユーザライセンス
InfoCage FileShell NEC FileProtection Edition ライセンス	NFPを利用するためのユーザライセンス (ベースライセンスも必要)
InfoCage FileShell プロテクタ for SharePoint Server	SharePoint ServerのIRM機能を拡張し、さまざまな形式のファイルを保護するためのソフトウェアとライセンス
InfoCage FileShell プロテクタ for ファイルサーバ	InfoCage FileShellクライアントが導入されていないPCや業務システムからファイルサーバにファイルが格納された時に自動で保護するためのライセンス
InfoCage FileShell 持出閲覧オプションユーザライセンス	InfoCage FileShellクライアントの機能を拡張し、持出閲覧形式で保護するためのユーザライセンス
InfoCage FileShell 簡易認証連携オプションユーザライセンス	FileShellシステムを導入したADとは別ドメインにログオンしている場合に表示される、ファイル利用時の認証画面へID/パスワードの入力を自動化するためのユーザライセンス

●別途、OS、SQL Server、AD RMS、Azure Information Protection等のMicrosoft社のライセンスが必要です。●InfoCage FileShell プロテクタ for SharePoint Serverを利用する場合は、別途、SharePoint Serverが必要です。●InfoCage FileShellプロテクタ for ファイルサーバを利用する場合は、別途、InfoCage FileShell プロテクタ for ファイルサーバのメディアキットが必要です。●InfoCage FileShell プロテクタ for ファイルサーバは保護専用です。ファイルを開覧・保護解除するにはInfoCage FileShellクライアントが必要です。●InfoCage FileShell 持出閲覧オプションを利用する場合は、別途、InfoCage FileShell 持出閲覧オプションのメディアキットが必要です。●InfoCage FileShell持出閲覧オプションのみでのご利用はできません。InfoCage FileShellクライアントが必要です。●InfoCage FileShell 簡易認証連携オプションを利用する場合は、別途、InfoCage FileShell 簡易認証連携オプションのメディアキットが必要です。●InfoCage FileShell簡易認証連携オプションのみでのご利用はできません。InfoCageFileShellクライアントが必要です。●構成などご不明な点は、なんでもお気軽に後述のお問合せ先までご連絡ください。

InfoCage FileShell の導入、構築、教育、サポートまで、ワンストップでSCSKへお任せください。

これまで数多くのお客様にさまざまな情報セキュリティを強化するITシステムの導入構築を担ってきたSCSKでは、豊富な知識と経験があります。技術支援として国家資格「情報処理安全確保支援士」を筆頭に高度情報処理資格を持った技術者による総合的なアドバイスや「InfoCage FileShell」を熟知したエンジニアによるきめ細かなサポートを提供しています。DX（デジタルトランスフォーメーション）推進においても機密情報保護ソフトウェア「InfoCage FileShell」の導入は大きくお役に立ち、あらゆる面でお客様の課題解決を実現します。安心してSCSKへご相談ください。



製品開発元 日本電気株式会社 〒108-8001 東京都港区芝五丁目7-1 (NEC本社ビル)

製品およびご購入に関するお問い合わせ

SCSK SCSK株式会社
https://www.scsk.jp/

ITインフラ・ソフトウェア事業本部 サーバ・ストレージ部
〒135-8110 東京都江東区豊洲3-2-20 豊洲フロント
E-mail:nec-sales@scsk.jp
製品情報 https://www.scsk.jp/sp/infocage/



Infocage FileShell
製品サイトはこちら

●本カタログ中の社名、製品名は各社の商標または登録商標です。●本製品の輸出(非居住者への役員提供等を含む)に際しては、外国為替及び外国貿易法等、関連する輸出管理法令等をご確認の上、必要な手続きをお取りください。ご不明な場合、または輸出許可等申請手続きにあり資料等が必要な場合には、お買い上げの販売店またはお近くの弊社営業拠点にてご相談ください。●本カタログに掲載された製の色は、印刷の都合上、実際のものとは多少異なることがあります。また、改良のため予告なく形状、仕様を変更することがあります。●記載内容は2023年4月1日現在のものです。